批判的であることが評価に関係するというのがよく分からなかったんですが。

沖先生：

批判的であるというのは別に反対という意味ではなくて、客観的な事実に基づいて自分がその事実を検証し、自らの意見を述べる。もしくは、書いてある作品なり文章に対して事実の検証をし、問題を指摘することができるということに置き換えることができると思うんです。先生がもし到達目標に挙げられたならば、ルーブリックの中で自分の論点を挙げることができるとか、相手の問題点を列挙できるというような評価シートを作っておいて○をつけるようにしておられたらいいと思います。

他に何かございませんでしょうか？どうぞ。

増田先生：

「関心・意欲・態度」、情意の到達目標は私の中では達成する手順と道筋が手順が非常に不明瞭に考えますが、その点いかがでしょうか？

沖先生：

はい、その通りです。非常に不明瞭です。教育学の中では 60 年間ずっと議論に挙がっています。無理して入れていただく必要もありません。もしも先生の授業の中でそれが非常に重要であるならば、もし挙げられるならば、何で測るかということも考えていただきたいです。本当に試行錯誤になると思います。私の近々な例で申しあげますと、うちの系列大学に APU、アジア太平洋大学があるんですが、そちらに向けて教職の授業を VOD で展開しています。教職ですので、どうしても教員としての情意的な領域を挙げたいし、挙げざるを得ない所があるんです。そこで、日常的な教育問題に関心を持つ、などの到達目標を挙げました。その上でどうやって測ろうかと思いまして、何をしたかと申しますと、VOD で配信していますので web 上の掲示板に投稿する仕組みを使ってるんですね。掲示板に質問や意見を 1 回挙げたら 1 点やと、私はとにかくそれでやってみようとやったんですね。上限は 30 点で、書くわ書くわ、いっぱい書いて、またその意見に対して他の学生が意見を言うので大いに盛り上がり、ある意味成功したかなあと思っています。妥当性についてはなかなか難しいですが、いろんな工夫が可能ですので、一度なさってみてください。必ずしも入れなければいけないわけではありません。ありがとうございます。

他に何かございませんでしょうか？これに関連して一番問題なのはディプロマ・ポリシーにそれが挙がってることが多いということですね。情意に関してどの授業で育成するか最終的にどこの大学も悩んでおられます。うちで一番困ってるのは薬学部です。医療モラルが必ず入っていますし、入れなければならないことになってるんです。どのようにしてこれを育成するのか、どんな授業が可能なのか。この問題に対しては、グループワークの授業を今設定しています。講義で教えても身につくものではないですから、学生たちが体

を動かして身につけるような授業を作ろうとしています。様々な工夫があります。他に何かございませんでしょうか？

６．ワークショップ

はい、そうしましたら途中で質問していただいて結構です、お時間 10 分押していますけれど、今から先生方に 1 つだけで結構です、授業を選んでいただいてその到達目標を書き直していただきたいと思います。白紙の A4 用紙が用意されていると思いますので、その用紙の上に今書いてある到達目標を書き写していただいて、before としてください。その下に書きなおし後の到達目標を書いていただいて、after としてください。その作業を 30 分程度でやっていただけますでしょうか。30 分作業をしていただいた後、グループごとに今 5 つのグループがございますので、グループの中でそれを発表、共有してもらいます。そしてグループの中で一番上手く書き直せたものを、前はこうだったけれど、こんなに分かりやすくなったねというのを 1 つ決めていただいて前で発表していただきます。それでは今から 30 分作業をしていただきたいと思います。

(各自、到達目標の書き直し作業を行い、その後、5 つに分かれたグループごとに共有作業を行った)

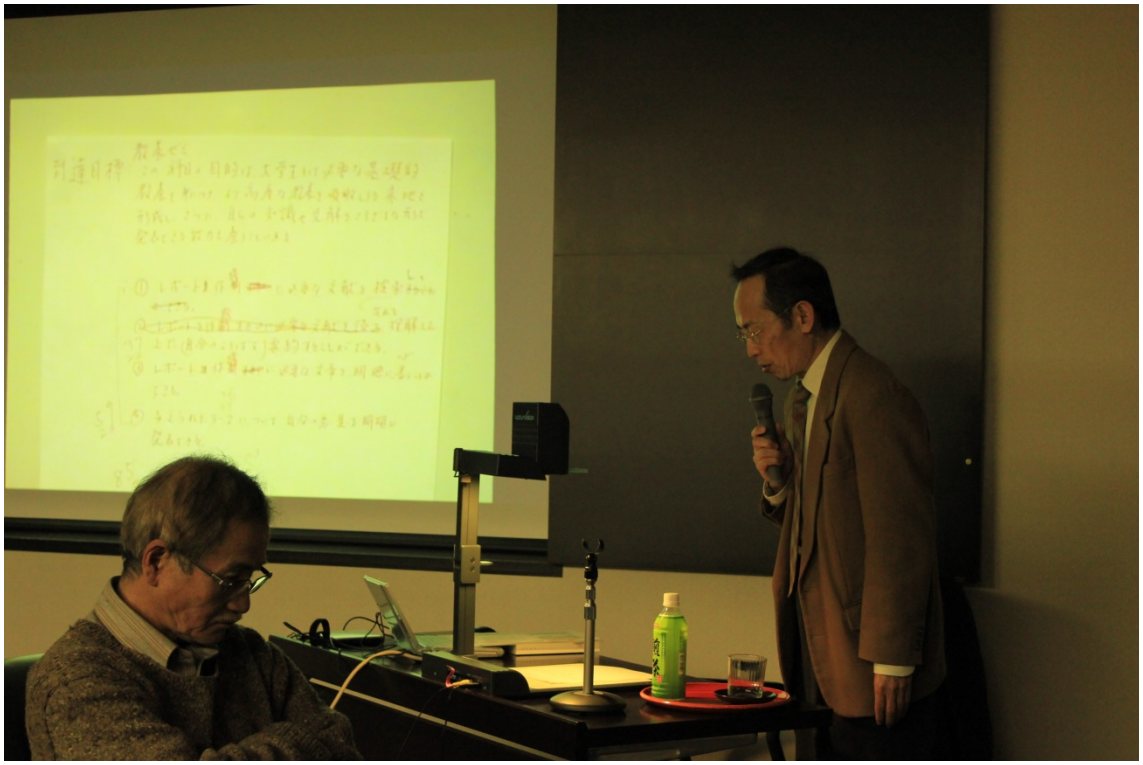
７．グループ代表者の発表

沖先生：

各グループで１番を選んでいただいたかと思いますが、その方に順番に前に来ていただいて、before、after を発表してください。それでは A グループの方お願いいたします。

佐野先生：

私が選びましたのは「教養ゼミ」です。教養ゼミは御存じだとは思いますが講義系の教員が全員で担当する科目であります。まずは before のほうです。到達目標「この科目の目的は大学生として必要な基礎的教養を身につけ、より高度な教養を吸収、素地を形成し、更に自らの知識や見解を様々な形で発表できる能力を養うことにある」。after は、当初４つの文にしたんですが、本学のシラバスの到達目標が 97 文字という規定があったのでさらに改変しました。４つを３つにしたんですが、①レポート作成に必要な文献を検索し、それを理解した上で自分の言葉で要約することができる。②レポート作成に必要な文章を明瞭に書くことができる。③与えられたテーマについて自分のテーマを明確に発表することができる。92 文字、以上です。

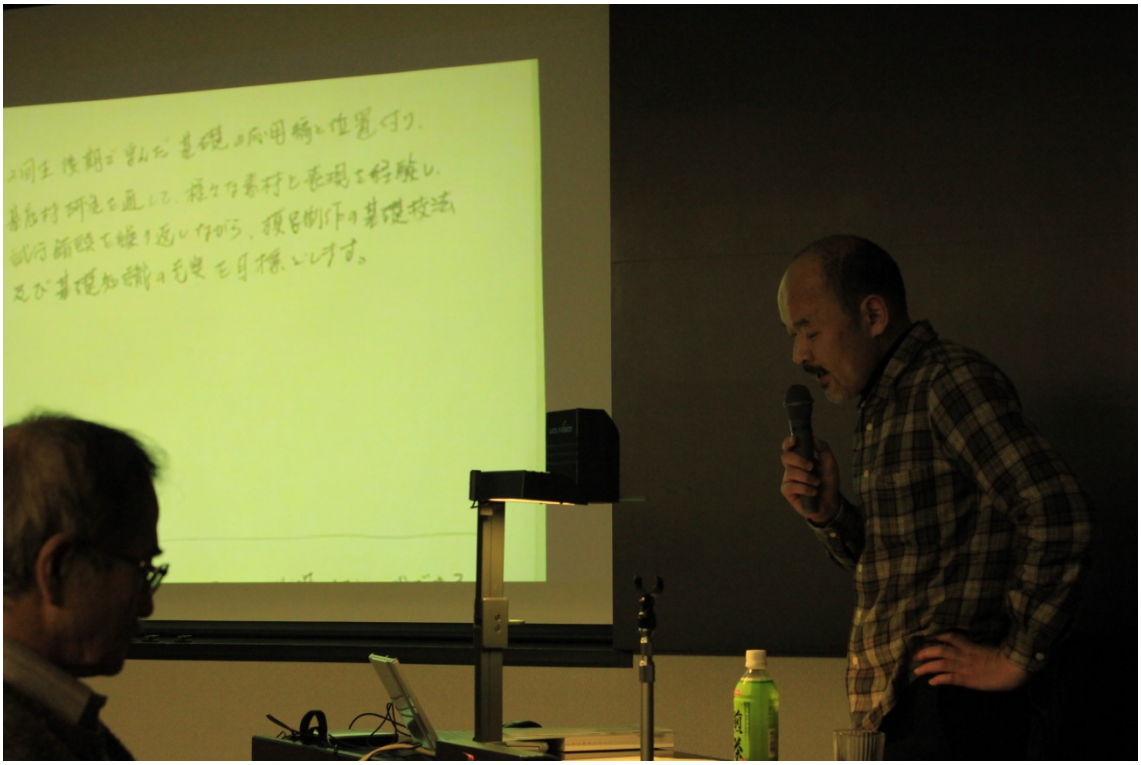


沖先生：

はい、ありがとうございました。今の到達目標でどうなるかが明確になったと思います、素晴らしいです。はい、ではＣグループお願いします。

仲先生：

ちょっと字が汚いですが、これは古画３回生の専門実習Ｉです。授業自体は３つの基底、板・紙・絹のうち、今まで使ったことのない基底材を使って同じ模写対象の作品を３つ作るという授業です。それに向けて最初に書いていた到達目標が、「２回生後期で学んだ基礎の応用編と位置づけ、基底材研究を通して、様々な素材と表現を経験し、試行錯誤を繰り返しながら、模写制作の基礎技法及び基礎知識の充実を目標とします」という分かりにくいものでした。それをいろいろ考えて、「各基底材の特徴および違いを説明することができる」、「各基底材に的確な下地処置ができる」、「絹を正しく張ることができる」、「模写対象作品の時代背景および及び技法を説明できる」、「各基底材にムラなく色が塗れる」、「自分が大切にした表現について説明することができる」、「失敗に対して的確な処置を説明することができる」ということになりましたが、最終作品の完成度がどうかが重要なのですが、それをどのように表現して当てはめるか迷ってしまい、ここでは抜けてしまいました。



沖先生：
　ここはこうしたらいいというような意見はありますか？私すこし感動してしまいました。とてもよく分かりました。あ、どうぞ。

某先生：
　基底剤という言葉は分かりにくくないんですか？

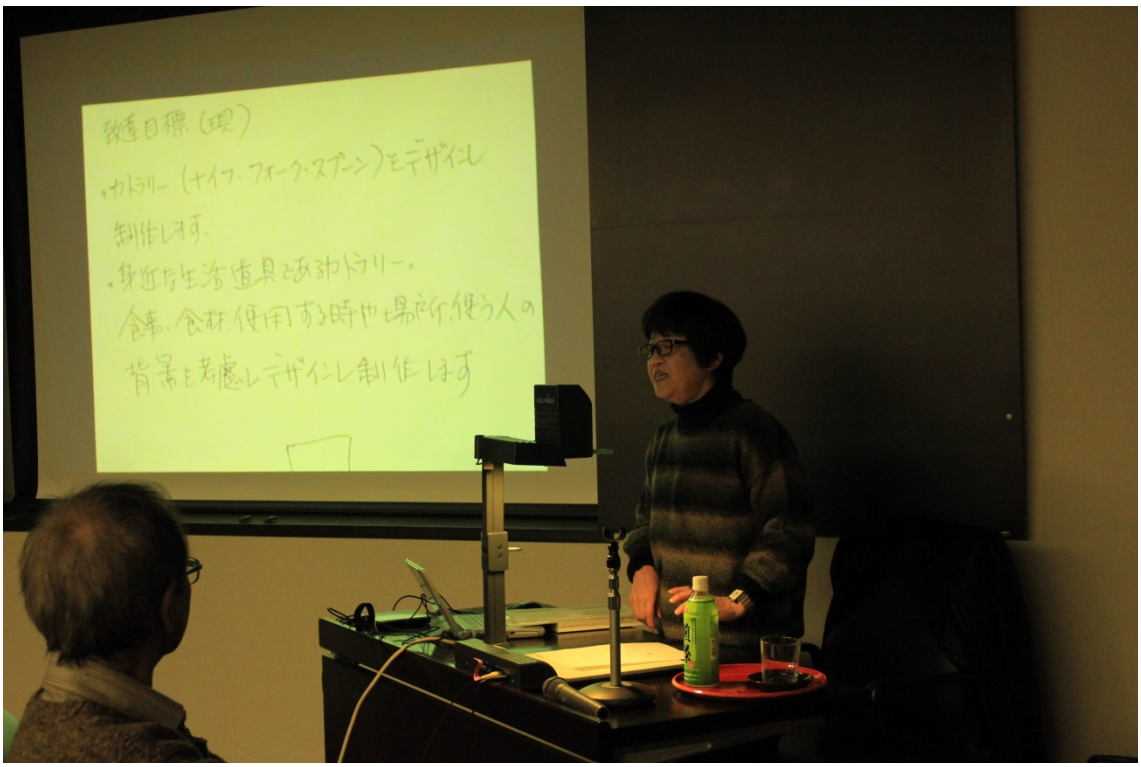
仲先生：
　もう２回生までに説明していますので、大丈夫です。

沖先生：
　今のポイントはよく指摘されることです。到達目標に書いてあって学生が分からなかったら困りますので、できる限り分かりやすい言葉を使うのが原則ですが、専門用語ですので仕方がないところもあります。先程の数学の例でも、「対角化する」などいろいろと書いてありましたが、やはりその言葉はほとんどの学生が分かりません。でも書き方を変えることは不可能ですので、1回目の授業でその辺りの詳しい説明をするか、授業概要の中に多少の説明を入れておくなどのことで工夫されたらいいと思います。今のご指摘は非常に重要ですね、ありがとうございました。
　他に何かございませんかね？はい、では今おっしゃった方向で完成度を、もう１行、ぼ

ちぼちで構いませんから 2 年後、3 年後に入ってくると、これは私サンプルにいただきたい気がします。はい、では B グループどうぞ。

森山先生：

暮らしのグッズ・デザインで物づくりを素材に親しみながら作っていくという大きなカリキュラムを担っている科目です。プロダクトの中ではデザインだけではなくて素材に触れるということを、歴史的にも繰り返しながらやってきています。この課題は２回生に向けてのものですが、現在到達目標として書かれているものが今ここに書いてある、「カトラリー（ナイフ・フォーク・スプーン）をデザインし制作します。身近な生活道具であるカトラリー。食事、食材、使用する時や場所、使う人の背景を考慮しデザインし制作します」です。ウーンと皆で考えて、その結果が「生活文化に基づいたカトラリーをデザインする意義を説明することが出来る」、「素材の特性に合った作品を制作できる」この二つに絞りこみました。授業の概要としてはデザインマップを作ったり、いろんなことをしているんですけれども、目標だけはすっきりと。

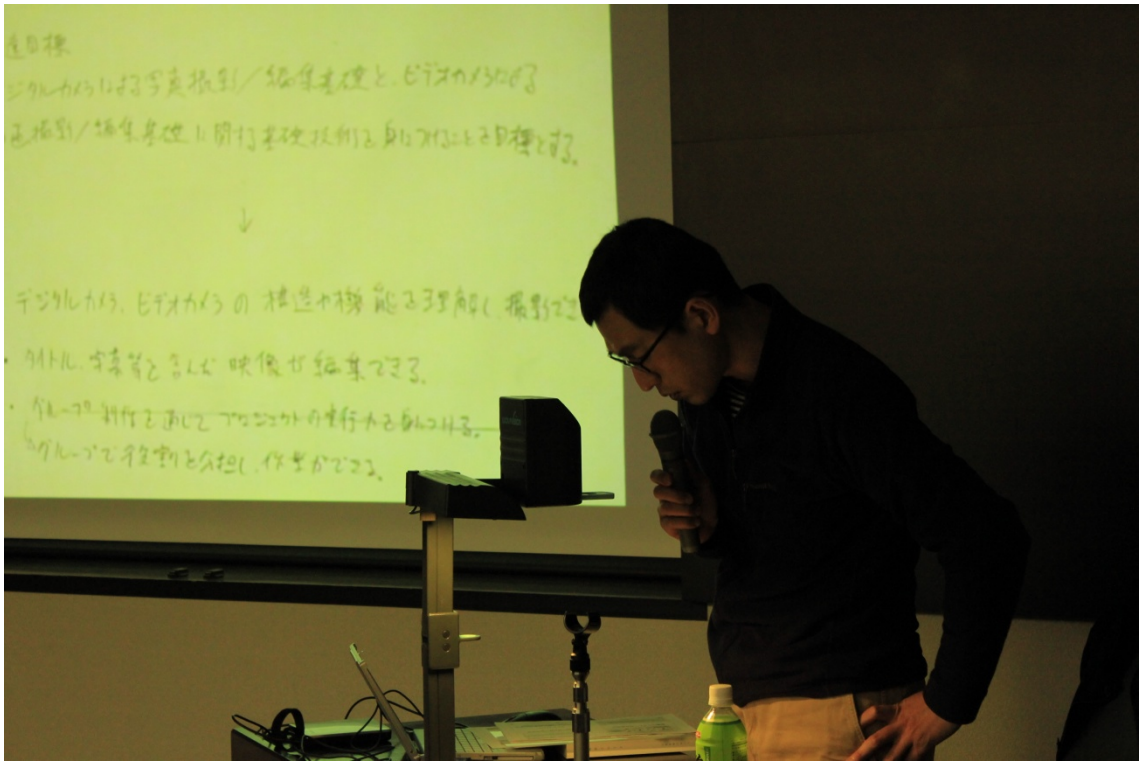


沖先生：

はい、ご質問ご指摘などはございませんか？はい、ありがとうございます。では次は D グループですかね。

倉山先生：

では D グループのを発表します。デザインの 1 回生の授業で映像基礎という授業をやっています。これは 3 名から 4 名のグループを作って、グループごとに 1 本 3 分から 4 分のストーリー映像を制作するという授業で、初めてビデオカメラを使う子もいます。そうした授業をやっています。到達目標は「デジタルカメラによる写真撮影／編集基礎とビデオカメラによる動画撮影／編集基礎に関する基礎技術を身につけることを目標とする」というめちゃくちゃ基礎基礎と書いてあるんですが、他にも書いてあるものの到達目標がしつこい割には少なすぎるということで少し変えました。それが矢印の下の部分です。修正後は「デジタルカメラ、ビデオカメラの構造や機能を理解し撮影できる」、「タイトル、字幕等を含んだ映像が編集できる」、「グループで役割を分担し、作業ができる」としました。グループの説明に関する 3 つ目の項目のはこれでよいのか自信がないですが、このようにしてみました。



沖先生：

何かご質問ご指摘はございませんか？はい、非常によく分かるようになりましたね。素晴らしいと思います。ここの部分（3 つ目の「グループで役割を分担し、作業ができる」）ですが、先生が期待してらっしゃるのが例えば情意的領域の関心や意欲や態度を含んでいるかどうか、ですね。もし含んでいるならば、こう書いたら何かの評価をしなければいけないですが、何かお考えですか？

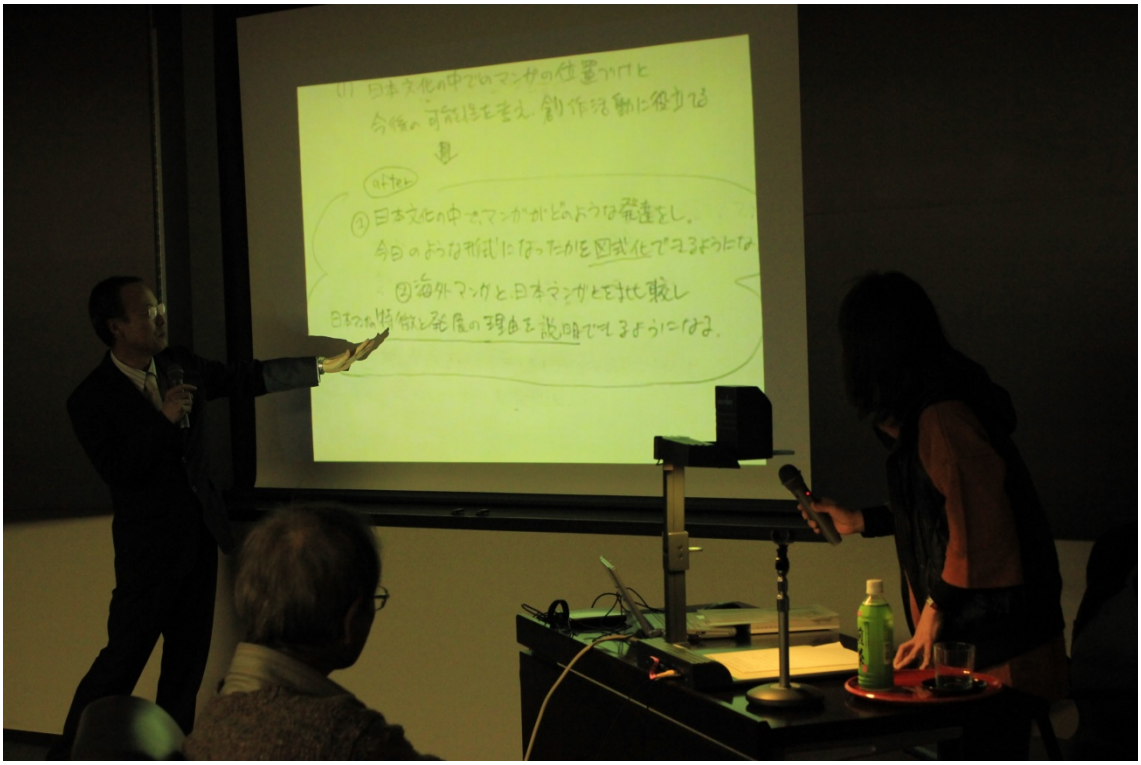
倉山先生：
　そう言われれば、そこの採点基準はなくて、作品の提出物のみで今は採点してますから、気持ちの上でコミュニケーションさせたい、企画を提示してディスカッションしてもらいたいという思い、採点基準をどうすればよいのか分からないです。

沖先生：
　それはグループで同じ点数ですか？

倉山先生：
　提出物の種類があって、個人で提出する場合と、グループによる統一の基準に基づく場合とがあります。

沖先生：
　はい、こうしたケースはうちでもよくあります。グループワークを行ったときの個人の協力体制、どのように貢献したかを絶対に評価に入れたいという先生も結構いまして、お互いの相互評価であるとか、個人評価のような自己申告のアンケートであったり、他人に渡す評価シートであったり、それをグループに配って、○○については 5 段階で 4 番目とか３番目とか○をつけていって、それを点数化する先生は結構います。この到達目標を書いて、評価方法をルーブリックにして授業をなさったらきちっと評価に入りますので、またぼちぼちで結構ですよ、やっていただきたいと思います。では、ラスト、E グループお願いします。

竹中先生：
　すいません、専攻科の「マンガ特論」で、これは実習はなく講義だけの授業です。before は「日本文化の中でのマンガの位置づけと今後の可能性を考え、創作活動に役立てる」、これが元の文章です。直しまして「①日本文化の中で、マンガがどのような発達をし、今日のような形式になったかを図式化できるようになる」、「②海外マンガと日本マンガとを比較し、日本マンガの特徴と発展の理由を説明できるようになる」、この二つにしました。シンプルですみません。これを書きながら、これでテストが作れるなあと思いました。ところで、私から質問なんですが、元も文章の「可能性を考え」というのが上手くまとまらなくて入れられなかったんですね。先程それが評価できなければ入れないとおっしゃっていたので、それはそのまま置いておこうかなと思いました。



沖先生：

何かご質問とかないですか？素晴らしい、この図式化というのが僕にはイメージがないので図式化できませんけれど、きっとあるんでしょうね。それから、発展の理由を説明できる、というのも非常に良いと思います。可能性ですが、レポートを書かせるようなことはできませんかね？今後の日本のマンガがどのように発展するかについて、あなたの考えを書いてください、のようなことを、提案することができる。はい、ありがとうございました。

素晴らしい書き直しができたと思います。今最後の先生がおっしゃった通り、実は先生方が採点基準を意識して書くとかなり良い到達目標になると思います。それをそっくりそのままルーブリックに細分化して載せれば、ルーブリックも一緒に作ることができると思います。それと土井さんに提案なんですが、せっかく良い事例が五つ出ました。非常勤の先生もいらっしゃると思うので、その事例を執筆要領に含めておかれたら意外と早く定着します。うちは 1000 名余りの専任教員がいて非常勤が約 3000 人いますので、とても研修などはできません。したがってガイドブックを作っています、執筆要領です。そこに良い例をいくつか挙げているだけです。それで 3 年程経つと、ほとんどの先生が曲がりなりにも「○○できる」、のような書き方をしてくれています。今日申し上げたように上手・下手はあります。それはそれぞれの先生が 3 年、5 年かけてブラッシュアップしていただいたらいいので、是非今日の事例をご本人の承諾を得て、載せていただけたらと思います。はい、じゃあちょうど時間になりました。お時間ありがとうございました。

＊　＊　＊

神谷 FD 委員長：
沖先生、ありがとうございました。今日自分の書いたシラバスを書き直しているときに、僕は学生になったような気分で沖先生に質問をして教えていただいて、とてもおもしろかったんですね。それは今自分が何を目的として取り組んでいるのかというのが分かっていましたし、質問をして答えていただくというのが学生に戻ったような気持ちで気持ちが良かったというだけのことなのですが、やはり自分が今何を学ぼうとして頑張っていて、何がその結果いけなくって、どうすればより良くなったのかっていうのが分かるということが本当に大事なんだ、と自分のシラバスを直しながら強く実感しました。今日欠席した教員もいるんですが、なるべく全教員に今日のお話が行き渡って、できるだけ統一した認識を持ってカリキュラムを作っていけたらと思います。今日はありがとうございました。

４－３．FD 研修を終えて

以上の通り、FD 研修は当初の予定通りに行われ、盛大な拍手とともに終了した。講演を快くお引き受けいただいた沖先生を始め、研修会の実施にご尽力いただいた関係者に FD 委員会より心よりの謝意を表する次第である。

研修の開催日は平成 25(2013)年 1 月 8 日であり、次年度の「科目概要 2013」に掲載すべき各科目のシラバスは既に教務課（平成 25 年度より学務課）における取りまとめが完了しつつある段階であった。本来であれば研修の成果を次年度シラバスに反映させるには苦しい日程であったが、教務課の配慮により、2 月初旬にシラバス修正期間を設けることにより、シラバス改善が前進することとなった。

結果として、「科目概要 2013」が示す通り、研修に参加した教員を中心として、各授業の教育目的がより明確に示されるようになった。少なくとも、教育目的と授業概要を区別して記述する意識は高まっていると言える。また、一部の教員ながら、教育目的と評価方法との連動性への意識が着実に強化されたことは、研修会の成果と見なしてよいのではないか。

ただし、「科目概要 2013」に掲載されたシラバスにおいては、評価方法においてルーブリックが使用されるには至っていない。ルーブリックの導入については、教員の理解の程度、学内コンセンサスに配慮して慎重な見極めが必要となってくるであろう。また、平成 24(2012)年度半ばに制定した芸術学部および短期大学部美術学科の学位授与方針への教員

の理解、特に、観点別項目立ての意義に対する基本的理解が、シラバス改善に大きく影響するものと思われる。さらには、平成 24(2012)年度末より運用を開始したカリキュラム・マップは、先に述べた学生授業評価アンケートや学位授与方針の運用、シラバスの改善と密接に関わり合っているわけであるが、教員の協力体制は現時点で十分なものとは言えず、恐らくは全体の教育質保証の枠組みに対する理解不足が潜在的に存在するものと推測される。

FD 委員会としては、学生授業評価アンケートやシラバス改善を粘り強く呼びかけることで徐々に教員理解と教職員の意識共有を強化していかねばならないであろう。また、研修という形態は意識共有に向けて極めて有効な手段であると思われ、平成 25(2013)年度以降も継続して実施する必要があろう。

資料

① 平成 24 年度芸術学部カリキュラム・マップ

② 平成 24 年度短期大学部美術学科カリキュラム・マップ

③ 平成 24 年度短期大学部専攻科カリキュラム・マップ

④ 平成 24 年度芸術学部学生授業評価アンケート集計表

⑤ 平成 24 年度短期大学部学生授業評価アンケート集計表

⑥ 平成 24 年度講義系科目学生授業評価アンケート集計表（前期）

⑦ 平成 24 年度講義系科目学生授業評価アンケート集計表（後期）

⑧ 平成 24 年度卒業生学習成果アンケート集計表

⑨ 平成 24 年度 FD 研修配布資料

⑩ 平成 24 年度 FD 委員会議事録

①平成 24 年度芸術学部カリキュラム・マップ

芸術学部カリキュラム・マップ（2011年度以降入学生）

授業区分	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	授業方法	学期 前期	学期 後期	担当教員名	対象年次	学位授与方針 A1	A2	A3	A4	B1	B2	B3	B4	C1	C2	C3	D1	D2	D3
導入	★教養ゼミ	2		演	◎	○		1年次必修					○									○
人間と表現	基礎学習技術		2	講	○		浜崎 陽子		○													
	コミュニケーション論ゼミ		2	講		○	佐野 仁志												○			○
	人間論(T)		2	講		○	浜崎 陽子									○						
	宗教学(T)		2	講		集	佐藤 文郎					○					○					
	文芸論A		2	講	○		佐藤 文郎		○										○			
	文芸論B		2	講																		
	身体表現演習		2	演	○		中森 洋子		○							○						
	文章表現演習		2	演	○	○	浜崎 陽子															○
	●運動文化論A(*)		2	講			中森 洋子		○													
	●運動文化論B(*)		2	講	○		中森 洋子		○													
	●コミュニケーション論		2	講	○		佐野 仁志					○							○			
現代社会と環境	●社会学		2	講	○		堀本 訓也					○										
	●くらしと経済		2	講		○	高橋 裕章					○										
	法学(日本国憲法)		2	講		集	國次 雄哲					○										
	生涯学習概論		2	講		○	関井 六治衛門	2年次以上				○		○					○			
	文化人類学(T)		2	講		○	鈴木 伸二	2年次以上				○										
	自然環境論		2	講	○		高橋 明夫															
	世界遺産論(S) (大学コンソーシアム京都単位交換協同科目)		2	講		○	高橋 明夫															
	観光文化論		2	講		○	谷上 英隆		○								○					
	サイエンス・リテラシー		2	講	○		木田 馨							○			○					
	ボランティア演習(SXT)		2	演	○		関井 六治衛門					○							○			
からだとこころ	健康科学演習A		2	演	◎		増田 洋								○						○	
	健康科学学習B		2	演		◎	増田 洋								○						○	
	生涯スポーツ演習(T)		1	演	○	○	増田 洋	2年次以上							○						○	
			1	演	○	◎	中森 洋子								○						○	
	心理学A(社会・臨床心理学)		2	講	○		東 智樹					○										
	心理学B(発達・青年心理学)(T)		2	講		○	東 智樹					○										
	●健康と運動		2	講		○	増田 洋					○									○	
言語と表現	英語Ⅰ		1	演	◎		佐野 仁志														○	
	英語Ⅱ		1	演		◎	佐野 仁志														○	
	英語Ⅲ		1	演	○		佐野 仁志														○	
	英語Ⅳ		1	演		○	佐野 仁志														○	
	英語Ⅴ		1	演			エルリック シェーブルン														○	
	英語Ⅵ		1	演			エルリック シェーブルン														○	
	仏語ⅠA-1(T)		1	演	○		佐藤 文郎														○	
					○		山本 潤紀														○	
					○		ジョアン グレニエ														○	
	仏語ⅠA-2(T)		1	演		○	佐藤 文郎														○	
						○	山本 潤紀														○	
						○	ジョアン グレニエ														○	
	仏語ⅠB-1(T)		1	演	○		ジョアン グレニエ														○	
	仏語ⅠB-2(T)		1	演		○	ジョアン グレニエ														○	
	仏語Ⅱ-1		1	演	○		佐藤 文郎	2年次以上													○	
	仏語Ⅱ-2		1	演		○	佐藤 文郎	2年次以上													○	
	中国語Ⅰ-1(S)		1	演	○		鍋 彤														○	
	中国語Ⅰ-2(S)		1	演		○	鍋 彤														○	
	中国語Ⅱ-1(S)		1	演	○		鍋 彤	2年次以上													○	
	中国語Ⅱ-2(S)		1	演		○	鍋 彤	2年次以上													○	
	●英語B1(文化)(*)		1	演			佐野 仁志														○	
	●英語B2(文化)(*)		1	演			佐野 仁志														○	
	●英語C1(文学)(*)		1	演	○		マイケル リッフル														○	
	●英語C2(文学)(*)		1	演		○	マイケル リッフル														○	
	●韓国A1(コミュニケーション)		1	演	○		佐野 仁志														○	

芸術学部カリキュラム・マップ（2011年度以降入学生）

細目区分	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	授業方法	学期 前期	学期 後期	担当教員名	対象年次	学位授与方針 A1	A2	A3	A4	B1	B2	B3	B4	C1	C2	C3	D1	D2	D3
言語と表現	●総論A(コミュニケーション)		1	演		○	佐野 仁志														○	
	●総論B-1(文学(*))		1	演	○		佐野 仁志														○	
	●総論B-2(文学(*))		1	演		○	佐野 仁志														○	
	●総文芸論A		1	演	○		藤田 淳一														○	
	●総文芸論B		1	演		○	藤田 淳一														○	
情報	情報基礎論(T)		2	講	○		森本 宏					○					○		○			
	情報科学		2	講		○	木田 豊			○											○	
	情報基礎演習ⅠA(Mac:画像処理)		1	演	③	④	大畑 直也・大島 成己													○		
	情報基礎演習ⅠA (Mac:画像処理デザイン学科)		1	演	③		二宅 章介・辻 勇治	デザイン学科												○		
	情報基礎演習ⅠB(Win:情報処理)		1	演	○	○	西山 健史													○		
	情報基礎演習Ⅱ		1	演	④	④	大畑 直也・藤本 秀樹													○		
	情報基礎演習Ⅱ(デザイン学科)		1	演		③	二宅 章介・辻 勇治	デザイン学科												○		
	情報応用演習		2	演	○		二宅 章介	2年次以上												○		
長期研修	国内長期研修		1	実	集		夏海 明夫															
	海外長期研修		1	実																		
	海外長期実地研究(ギリシャ)		2	演	集		佐藤 文郎	2年次以上	○			○										
	海外長期実地研究(イギリス)		2	演	集		上田 豊	2年次以上	○	○								○				
伝統芸術	華道理論Ⅰ(SXT)		2		○		荒木 信弘										○					
	華道理論Ⅱ(SXT)		2			○	荒木 信弘										○					
	華道Ⅰ		2	演	③		辻井 ミカ・中嶋 貴子・林 基子													○		
	華道Ⅱ		2	演		③	辻井 ミカ・中嶋 貴子・林 基子													○		
	華道Ⅲ		2	演	④		中尾 光子・藤本 和子	2年次以上												○		
	華道Ⅳ		2	演		④	中尾 光子・藤本 和子	2年次以上												○		
	華道Ⅴ		2	演			高砂 由利子	3年次以上												○		
	華道Ⅵ		2	演			高砂 由利子	3年次以上												○		
	華道Ⅶ		2	演			高砂 由利子	4年次												○		
	華道Ⅷ		2	演			高砂 由利子	4年次												○		
	書道Ⅰ-1(S)		1	演	○		小西 信太													○		
	書道Ⅰ-2(S)		1	演		○	小西 信太													○		
	書道Ⅱ-1(S)		1	演	○		小西 信太	2年次以上												○		
	書道Ⅱ-2(S)		1	演		○	小西 信太	2年次以上												○		
キャリアデザイン	コンピューター基礎実習(T)		1	実	④	④	西山 健史													○		
	キャリアプランニング(S)		2	講	○	○	秋田 弘隆 他	2年次以上							○							
	インターンシップ研修(SXT)		2	演	集		秋田 弘隆	2年次以上											○			
芸術の世界	日本美術史		2	講	○		佐々木 正子		○		○											
	東洋美術史(T)		2	講		○	佐々木 正子		○													
	西洋美術史		2	講	○		澤野 明		○													
	西洋近代美術史		2	講		○	澤野 明		○	○												
	現代美術論(T)		2	講		○	松尾 恵			○												
	日本風俗文化史(S)		2	講		○	宮ヶ崎 勝太郎		○													
	西洋風俗文化史(S)		2	講		○	大森 正夫		○	○												
	工芸概論(S)		2	講	○		上羽 陽子		○													
	映像表現論(S)		2	講		○	伊奈 歌苗														○	
	映像文化史(S)		2	講	○		伊奈 歌苗		○													
	現場演習A (絵画・映像メディア表現専攻)		2	演	○		山本 直樹														○	○
	現場演習B(彫刻)		2	演	○		竹内 二郎													○		
	現場演習C (デザイン・映像メディア表現専攻)		2	演		○	大森 正夫														○	○
	現場演習D(工芸)		2		○	○	日野田 崇・上田 豊													○		
	●絵本論		2	講		○	荒田 陽子		○													
	●靴の構造を観る		2	演		○	西山 健史				○											

芸術学部カリキュラム・マップ（2011年度以降入学生）

組織区分	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	授業方法	学期 前期	学期 後期	担当教員名	対象年次	学位授与方針 A1	A2	A3	A4	B1	B2	B3	B4	C1	C2	C3	D1	D2	D3
芸術と社会	デザイン史(T)		2	講	○		藤田 治彦		○													
	●マンガ史		2	講	○		玉越 賀野		○	○												
	デザイン概論		2	講		○	森本 栄			○		○										
	●デザイン思考法		2	講		○	森本 栄							○	○							
	メディアデザイン概論		2	講	○		木田 豊・大森 正夫				○			○								
	メディア工学		2	講		○	金谷 一郎・飛龍 芳津子	2年次以上													○	
	応用科学概論		2	講	○		金谷 一郎	2年次以上													○	
	ユニバーサルデザイン論(T)		2	講	○		加田 昇雄							○				○				
	観光デザイン概論		2	講	○		加上 英雄			○		○										
	イベント・デザイン論		2	講		○	桑田 政勇					○			○			○				
	観光商品デザイン論(S)		2	講		○	加上 英雄	2年次以上		○		○										
	シナリオ制作論 I		2	講	○		藤川 裕介														○	
	シナリオ制作論 II		2	講		○	藤川 裕介														○	
	芸術心理学		2	講	○		清滝 裕子	2年次以上													○	
	芸術と哲学(S)		2	講		○	鈴木 新士									○					○	
	芸術思考法演習		2	演		／	芳野 明	3年次以上	○													○
	現代社会と芸術		2	講	○		大森 正夫		○	○												
	エコロジーリズム・デザイン論		2	講	○		高橋 明夫															
	アートマネジメント論		2	講	○		木ノ下 智恵子					○										
	アートマネジメント演習		2	演		○	木ノ下 智恵子	2年次以上				○										
	知的財産権		2	講		○	福井 裕介	2年次以上												○		
	医療科学概論		2	講		集	北野 信雄													○		
	●児童造形演習		2	演	○		北村 正己												○			
	美術教育		2	講		○	北原 博				○				○		○					
京都プロジェクト関連科目	京都デザイン論 (大学コンソーシアム京都単位互換連携科目)		2	講	○		大森 正夫		○		○											
	京都文化論TX(S)		2	講		○	小林 保夫				○											
	伝統文化論		2	講	○		島山 宣男		○													
	現代文化史(S)		2	講	○		小林 保夫		○													
	●京の美意識		2	講		○	二好 恵郎				○											
	京都プロジェクトA-1		2	演	○		加上 英雄	2年次以上			○		○									○
	京都プロジェクトA-2		2	演		○	加上 英雄	2年次以上			○		○									○
	京都プロジェクトB-1		2	演	○		高橋 明夫 佐藤 文郎 芳野 明 猪崎 隆子	2年次以上			○		○									○
	京都プロジェクトB-2		2	演		○	高橋 明夫	2年次以上			○		○									○
	京都プロジェクトC-1		2	演	○		桑田 政勇	2年次以上			○		○									○
	京都プロジェクトC-2		2	演		○	桑田 政勇	2年次以上			○		○									○
	京都プロジェクトD-1		2	演	／		加上 英雄	2年次以上			○		○									○
	京都プロジェクトD-2		2	演		／	加上 英雄	2年次以上			○		○									○
	京都プロジェクトE-1		2	演	／		高橋 明夫 佐藤 文郎 芳野 明 猪崎 隆子	2年次以上			○		○									○
	京都プロジェクトE-2		2	演		／	高橋 明夫	2年次以上			○		○									○
	京都プロジェクトF-1		2	演	／		桑田 政勇	2年次以上			○		○									○
	京都プロジェクトF-2		2	演		／	桑田 政勇	2年次以上			○		○									○
	東洋・日本美術研究A		2	講	○		佐々木 正子	2年次以上	○		○											
	東洋・日本美術研究B		2	講		○	佐々木 正子	2年次以上	○		○											
	東洋・日本美術環境演習		2	演		／	佐々木 正子	3年次以上	○		○											
	西洋美術研究A		2	講	○		芳野 明	2年次以上	○								○					
	西洋美術研究B		2	講		○	柳山 守正	2年次以上	○								○					
	西洋美術環境演習		2	演		／	芳野 明	3年次以上	○													○
	工芸研究		2	講	○		上羽 陽子	2年次以上												○		
	工芸環境演習		2	演		／	日野田 崇	3年次以上					○									
	先端美術・メディアアート研究(S) (大学コンソーシアム京都単位互換連携科目)		2	講	○		松本 泰章・倉山 裕明	2年次以上	○					○								
	先端美術環境演習		2	演		／	松本 泰章・倉山 裕明	3年次以上				○						○				
	現代美術研究A		2	講	○		猪崎 隆子	2年次以上		○												
	現代美術研究B		2	講		○	大森 正夫・芳野 明	2年次以上		○		○		○								
	現代美術環境演習		2	演		／	大森 正夫	3年次以上	○	○												

芸術学部カリキュラム・マップ（2011年度以降入学生）

授業科目		単位数 必修	単位数 選択	授業方法	学期 前期	学期 後期	担当教員名	対象年次	学位授与方針 A1	A2	A3	A4	B1	B2	B3	B4	C1	C2	C3	D1	D2	D3
近代美術研究			2	講		○	佐藤 文郎	2年次以上	○			○										
現代作家論A(絵画・彫刻)			2	講	○		平野 和幸・村上 文生・大谷 憲明 入佐 美南子・仲 政明・篠崎 啓嘉	2年次以上		○		○	○									
現代作家論B(彫刻・工芸)			2	講		○	竹内 三雄・日野田 衆・上田 晋 青野 明・中西 信洋	2年次以上		○		○						○				
現代作家論C(写真・映像・メディアアート)			2	講	○		松本 泰章・大島 成己・山本 直樹	2年次以上					○					○				
東現代美術研究 (大学コンソーシアム京都単位互換連携科目)			2	講			篠崎 啓嘉	3年次以上		○												
東美術史研究			2	講			清水 肇	3年次以上	○													
○日本論国際特講(*)			2	講			佐々木 正子	3年次以上	○								○					
○東洋論国際特講(*)			2	講			佐々木 正子	3年次以上	○								○					
造形基礎実習Ⅰ		4		実	○		大島 成己 他	1年次							○					○		○
作品研究Ⅰ		2		演	○		大島 成己 他	1年次					○									
造形基礎実習Ⅱ		4		実		○	大島 成己 他	1年次							○					○		○
作品研究Ⅱ		2		演		○	大島 成己 他	1年次					○									
造形基礎実習Ⅲ	〈日本画〉	4		実	○		大谷 憲明・篠崎 啓嘉・島田 琢哉	2年次							○					○		○
	〈油画〉						入佐 美南子・平野 和幸 山本 直樹・イチハラ ヒロコ 荒谷 昌江・長谷川 一郎・藤井 敦								○					○		○
	〈版画〉						村上 文生・岸中 稔孝・渡田 弘明高治 千晶・田中 敦子								○					○		○
	〈彫刻〉						竹内 三雄・多田 千明・高石 賀代 中西 信洋・竹段 稔・山内 賀彩子								○					○		○
	〈工芸 陶芸〉						池田 八栄子・内山 敏郎								○					○		○
	〈工芸 染織〉						上田 晋・東免 恵子 青引 あり子・大谷 由香								○					○		○
	〈メディアアート〉						松本 泰章・長谷川 俊・人見 華月								○					○		○
作品研究Ⅲ	〈日本画〉	2		演	○		仲 政明	2年次												○		○
	〈油画〉						入佐 美南子・平野 和幸 山本 直樹・伊藤 亨・青木 稔子													○		○
	〈版画〉						藤永 貴郎													○		
	〈彫刻〉						竹内 三雄・北田 憲 山内 賀彩子・中西 信洋						○							○		
	〈工芸 陶芸〉						池田 八栄子													○		○
	〈工芸 染織〉						河瀬 美文													○		
	〈メディアアート〉						松本 泰章								○					○		○
造形基礎実習Ⅳ	〈日本画 制作〉	4		実		○	大谷 憲明	2年次							○					○		○
	〈日本画 市場〉						仲 政明								○					○		○
	〈日本画 共同制作〉						仲 政明・篠崎 啓嘉・島田 琢哉								○					○		○
	〈油画〉						入佐 美南子・平野 和幸 山本 直樹・イチハラ ヒロコ 荒谷 昌江・長谷川 一郎・藤井 敦								○						○	○
	〈版画〉						村上 文生・岸中 稔孝 渡田 弘明・高治 千晶 安井 良南・藤永 貴郎								○						○	○
	〈彫刻〉						竹内 三雄・多田 千明 高石 賀代・中西 信洋 竹段 稔・山内 賀彩子								○						○	○
	〈工芸 陶芸〉						池田 八栄子・内山 敏郎								○						○	○
	〈工芸 染織〉						上田 晋・東免 恵子 富田 優・青引 あり子								○						○	○
	〈メディアアート〉						松本 泰章・長谷川 俊・人見 華月								○						○	○

芸術学部カリキュラム・マップ（2011年度以降入学生）

授業科目		単位数 必修	単位数 選択	授業方法	学期 前期	学期 後期	担当教員名	対象年次	学位授与方針 A1	A2	A3	A4	B1	B2	B3	B4	C1	C2	C3	D1	D2	D3
作品研究IV	〈日本画 制作〉	2		演		○	大沼 重明	2年次	○													
	〈日本画 方法〉						山本 紀子・竹上 春宗・黒崎 雅春		○											○		
	〈日本画 伝統製作〉						山本 紀子・竹上 春宗・黒崎 雅春		○											○		
	〈彫塑〉						入佐 義男・平野 和春　山本 重樹・伊藤 芳・青木 綾子													○		○
	〈油画〉						田村 宏子													○		○
	〈版画〉						竹内 三郎・友田篤 實　山内													○		
	〈彫刻〉						田村宏子・中西 信洋															
	〈工芸 陶芸〉						南雲 俊昭													○		
	〈工芸 金属〉						星田 明子													○		
	〈メディアアート〉						松本 泰章													○		
造形専門演習I	〈日本画 制作〉	4		実				3年次							○						○	○
	〈日本画 方法〉														○						○	○
	〈日本画 伝統製作〉														○						○	○
	〈油画〉														○						○	○
	〈版画〉														○						○	○
	〈彫刻〉														○						○	○
	〈工芸 陶芸〉														○						○	○
	〈工芸 金属〉														○						○	○
	〈メディアアート〉														○						○	○
作品研究V	〈日本画 制作〉	2		演				3年次	○													
	〈日本画 方法〉								○											○		
	〈日本画 伝統製作〉								○											○		
	〈油画〉																				○	○
	〈版画〉																				○	○
	〈彫刻〉																				○	○
	〈工芸 陶芸〉																				○	○
	〈工芸 金属〉																				○	○
	〈メディアアート〉															○		○				
造形専門演習II	〈日本画 制作〉	4		実				3年次							○						○	○
	〈日本画 方法〉														○						○	○
	〈日本画 伝統製作〉														○						○	○
	〈油画〉														○						○	○
	〈版画〉														○						○	○
	〈彫刻〉														○						○	○
	〈工芸 陶芸〉														○						○	○
	〈工芸 金属〉														○						○	○
	〈メディアアート〉														○						○	○
作品研究VI	〈日本画 制作〉	2		演				3年次	○												○	
	〈日本画 方法〉																			○		
	〈日本画 伝統製作〉												○									○
	〈油画〉																				○	○
	〈版画〉																			○		
	〈彫刻〉																				○	○
	〈工芸 陶芸〉																				○	○
	〈工芸 金属〉																			○		
	〈メディアアート〉															○		○				○
造形専門演習III	〈日本画 制作〉	4		実				4年次							○						○	○
	〈日本画 方法〉														○						○	○
	〈日本画 伝統製作〉														○						○	○
	〈油画〉														○						○	○
	〈版画〉														○						○	○
	〈彫刻〉														○						○	○
	〈工芸 陶芸〉														○						○	○
	〈工芸 金属〉														○						○	○
	〈メディアアート〉														○						○	○